

卒業生が回答した卒業時到達目標ごとの自己評価表—4年間を通して—の結果一覧

令和4年度

N=49

I 看護を実践する			n(%)
看護の原理	看護サービスの効果的提供のための看護組織とマネジメントについて理解できる。	到達していない	0(0%)
		あまり到達していない	5(10%)
		ほぼ到達している	32(65%)
到達している		12(24%)	
看護の学びを通して自分なりの看護観を形成する	到達していない	0(0%)	
	あまり到達していない	1(2%)	
	ほぼ到達している	25(51%)	
さまざまな看護場面におけるさまざまな対象者に応じた看護の役割・活動及び専門性を実践を通して総合的・統合的に考えることができる。	到達していない	0(0%)	
	あまり到達していない	2(57%)	
	ほぼ到達している	28(37%)	
ライフプロセスと看護	個人、家族、集団の健康レベルの回復、維持、増進をはかるために、統合的に考え、看護が実践できる。	到達していない	0(0%)
		あまり到達していない	2(4%)
		ほぼ到達している	30(61%)
		到達している	16(33%)
II 人とつながる			
ヒューマンケアと看護倫理	様々な看護場面から他者のこころを理解すると共に自己理解を深め、ヒューマンケアにおける人間関係について考察できる。	到達していない	0(0%)
		あまり到達していない	2(4%)
		ほぼ到達している	25(51%)
		到達している	22(45%)
III 健康とつながる			
統合体としての人間と健康	健康概念の観点から対象者の生活の支援を総合的に評価し、考察することができる。	到達していない	0(0%)
		あまり到達していない	1(2%)
		ほぼ到達している	26(53%)
		到達している	22(45%)
IV 社会とつながる			
ヘルスケアシステムと看護	さまざまな健康レベルにある対象者に必要な健康支援の政策について理解を深めることができる。	到達していない	0(0%)
		あまり到達していない	3(6%)
		ほぼ到達している	29(59%)
		到達している	17(35%)
V 未来につながる			
教養とキャリア発達1	自分の課題を解決し、自己の関心のある看護の課題をさらに追求することができる。	到達していない	0(0%)
		あまり到達していない	3(6%)
		ほぼ到達している	29(59%)
		到達している	17(35%)
看護専門職としての将来の自分像を考えることができる。	到達していない	0(0%)	
	あまり到達していない	5(10%)	
	ほぼ到達している	20(41%)	
	到達している	17(35%)	